



原田 實理事長インタビュー

聞き手 山根基世さん

健全な大衆娯楽産業としての 認知と誇りをもたらす社会貢献

**もはや遊技業界の文化として定着しつつある社会貢献活動。
全日本遊技事業協同組合連合会理事長として
全国のパチンコ・パチスロホールを率い、
全日本社会貢献団体機構の理事長でもある原田實 理事長に、
これまでの活動の歩みと今後の展望について、お話を聞いた。**

山根 いま、世間では盛んに「企業の社会的責任」とか、その一環としての「社会貢献活動」ということがいわれています。でも、そういう言葉が人口に膾炙する以前から、パチンコ業界ではさまざまな取り組みを続けてこられたとうかがっています。

原田 おかげさまで、遊技業界ではかれこれ50年以上も前から、いろいろな活動に取り組まさせていただいております。

山根 業界を挙げて、そうしたことに取り組む根底には、どのようなお考えがあるのでしょうか。

原田 われわれの業界が社会に認められる業界になるには、どうしたらいいかという問題意識だと思います。われわれが大衆娯楽産業として発展

していくためには、地元や近隣のみなさんから愛されるホール、企業、業界でなくてはなりません。地域のみなさんと共存共栄の関係を築いていくために、何をしなければならないのか。その思いが、業界を挙げて社会貢献活動に取り組む姿勢を作り上げているのだと思います。

山根 現在では、さまざまな形の社会貢献活動に広がりを見せているようですが、最初は、どのような活動から始まったのでしょうか。

原田 私の記憶では、福祉関連事業への協力が最初ではなかったかと思っています。この分野への支援や協力の必要性は、かなり以前からいわれていました。まず、地方自治体の福祉部

門や社会福祉団体などが行う行事やイベントなどに、運営費や賛助金を寄付するというのが、最初だったと思います。また、業界指導などで関係が深い警察関連では、各地の防犯運動、交通安全運動などの際に、のほり、腕章、ジャンパー、帽子、ステッカーなどを提供するという活動が多かったと思います。

平成6、7年前後、パチンコ業界は「30兆円産業」といわれ、鉄鋼業や自動車産業と肩を並べるほどの規模になっていました。さらにファンを増やし、一般の方々に業界について理解していただくためには、福祉活動支援をはじめとする社会貢献活動などを通じて、地位向上を図る必要性がありました。



原田 實（はらだみのる）／1927年（昭和2年）、愛知県北設楽郡生まれ。愛知県立第一師範学校卒。名古屋市で小学校教師、故郷で材木商を経験したのち上京。55年に東京・中野区でパチンコ店開業。90年、東京都遊技業協同組合理事長。現在、全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）理事長、全日本社会貢献団体機構理事長。座右の銘は「有言実行」。

山根 企業の社会的責任の一環として、法令順守、コンプライアンスの徹底という点でも、パチンコ業界は暴力団排除に取り組んできたと聞いています。その先頭に立たれたのが、原田理事長だということですが。

原田 もちろん私だけでなく、日本各地で、それこそ命がけの努力をしました。私は平成2年に東京都遊技業協同組合理事長に就任しましたが、業界と暴力団との関係を絶つことが私への至上命令だと思い、就任当初からこの問題に取り組みました。

山根 7、8年で排除できたと聞きました。

原田 表立った闘争というのは、そのくらいで終わりましたが、完全な排除を達成するには、やはり15年ぐらいかかりました。

山根 業界を近代化させたいという理事長の強い意志で取り組まれた活動が高く評価され、平成11年には、警察庁長官賞も受けられたのですよね。

原田 当時、パチンコ業界はICの最先端技術を取り込んだ遊技機、あるいは本物の大理石を使ったホール建築など、その勢いには目を瞠るものがありました。しかし、いくら外観を豪

華に整えたところで、中身が健全でなくては、業界として将来がないと思ったのです。

山根 お話をうかがっていると、健全な大衆娯楽産業に育てるといふことと社会の活動の実施がリンクしているという感じを受けます。

原田 業界自体が健全で、なおかつ安定成長が期待できれば、一層、社会貢献活動に腰を据えて取り組めるのではないのでしょうか。その意味も込めて、東京都遊協では青年部を立ち上げることに力を注ぎました。真に社会から信頼される業界にしていくためには、新しい価値観やセンスを持った若い業界人を育て上げることが必要です。彼らは二世、三世の経営者を対象に、早稲田大学と提携してパチンコ産業向けのサービスマネジメント講座を開設するなど、新たな業界づくりに励んでいます。また、東京だけでなく各地に青年部ができ、いま彼らは中核を担っています。

山根 そういう方々が、社会から信頼される業界づくりと社会貢献を一体にして、さまざまな活動に積極的に取り組んでいらっしゃるのですね。

原田 資金や物資の寄付・寄贈だけでなく、日ごろから地域の防犯、交通



山根 基世（やまねもとよ）さん／1948年（昭和23年）、山口県防府市生まれ。早稲田大学文学部卒。NHK入局後、主婦や働く女性を対象とした番組、美術・旅・ニュース番組、「ラジオ深夜便」など幅広く担当。女性として初のアナウンス室長。07年、退職後、有限責任事業組合「ことばの杜」代表。

業界が取り組んできた社会貢献活動の一例

社会福祉、地域貢献、青少年育成、災害救済、交通・防犯、暴力団排除など、さまざまな分野でわれわれの仲間が取り組んできた社会貢献活動の一例です。これらの地道な積み重ねが、業界に対する社会の信頼感醸成に役立っています。継続性を忘れずに、今後も一歩ずつ努力しましょう。

社会福祉関連



事業例：大阪府遊技業協同組合「未来っ子カーニバル」事業

地域貢献関連



事業例：兵庫県 川西遊技業組合「地域安全環境美化運動」事業

青少年育成関連



事業例：静岡県遊技業協同組合「通学合宿推進」事業

災害救済関連



事業例：奈良県遊技業協同組合「全消防本部への指令車寄贈」事業



二世、三世の経営者を対象に早稲田大学と提携しパチンコ産業向けのサービスマネジメント講座を開催

安全、清掃活動など、いわゆる地道に汗をかく活動を積み重ねたり、災害時の復興支援など、その取り組みは多岐にわたっています。

山根 たとえば災害復興支援などでは、どういった活動を？

原田 平成9年に起きたナホトカ号重油流出事故では、東京都遊協の青年部から20名以上のボランティアが参加し、重油の除去活動に従事しました。また、平成16年の中越地震の際には、発生から3日後には現地に入り、物資の援助などを行いました。あのときは、ちょうど経営者研修会を開いていた時期で、その会場で募金を呼びかけたら、3日間で3,000万円集まりました。

山根 業界としての規模が大きいですから、少し動くだけで大きなことができますね。2007年に全日本社会貢

献団体機構が開催した社会貢献フォーラムの司会を務めさせていただきましたが、そのときにお話に出た大阪府遊協青年部会が主催している「未来っ子カーニバル」なども、素晴らしい活動だと感心しました。とにかく、業界のコンセンサスとして、社会貢献活動がしっかりと位置づけられているという感じを受けます。

原田 ここ2年ほど、不況のあおりを受けて当業界も大変な不景気です。しかし、そのような状況の中でも社会貢献に対する意欲は衰えていません。

山根 私は企業メセナ協議会というところの委員を仰せつかり、ここ3年ほど企業のメセナ活動をいろいろと見てきました。その中で、「メセナとは見返りなき社会貢献」だという声をよく聞きました。でも、見返りはあるのではないかと思います。社会貢献

をすることで、その企業なり、業界なりに対する信頼感が高まります。それこそが、大きな見返りではないでしょうか。さらに従業員のみなさんが、社会貢献に積極的に取り組む会社や業界に所属しているということで、自分自身や自分の仕事に誇りを感じられる。それが働く意欲や士気を高めることにつながると思います。

原田 おっしゃる通りだと思います。われわれの業界では、現在、約40万人が働いています。その方々が、自分たちの仕事に誇りを持つことが大切です。その方向に業界を導いていくことが、私に課せられた使命のひとつだと思っています。

山根 一国一城の主のような業界の経営者の方々をまとめていくには、強力なリーダーシップが必要ではありませんか。

原田 提案の方向さえ間違っていな



新潟県中越沖地震の際、東京都遊協として3千万円の募金を寄贈



ナホトカ号重油流出事故では、復興支援に東京都遊協 青年部がボランティアとして参加

業界が取り組んできた社会貢献活動の一例

交通関連



事業例：新潟県 上越遊技業組合「子ども安全パトロール作戦」事業

防犯関連



事業例：群馬県 高崎遊技場組合「NPO法人「安心安全憩いのまちづくり」」事業

暴排関連



事業例：広島県遊技業協同組合「暴力追放排除活動」事業

学術・文化関連



事業例：愛知県遊技業協同組合「パチンコ大衆文化・福祉応援賞の贈呈」事業 (大衆文化部門受賞の三河伝統手筒花火連合会)

ベースにして、もう少し広い視野に立った社会貢献に取り組んでいく必要があると思います。そうすれば、われわれの業界が行っている社会貢献活動に対する社会の認知度や評価も高まっていくのではないかと考えています。そのためには、関係団体などを巻き込んで、さらに大きな団体にしていくことも一案です。

山根 単に資金を出す、人を出すといったものだけでなく、パチンコホールならではの立地特性や、人が多く集まる場所といった特性などを生かした社会貢献活動も今後は出てくるでしょうね。

原田 すでに取り組んでいます。地球温暖化対策や地震などの災害対策への協力なども、今後、ますます重要になってくると思います。

山根 今日は、いろいろなお話をう

かがえて、私たちアナウンサー仲間が行っている社会貢献活動を考えるうえでも大いに参考になりました。ありがとうございます。

原田 こちらこそ、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。どのような社会貢献をしていくにしろ、われわれ遊技業界が健全な大衆娯楽産業として、お客様に憩いのひとときを提供すること、つまりパチンコ・パチスロホールとしての本業を全うすることこそが最大の社会貢献であり、それが地域や社会のみなさんから信頼を得ることにつながっていくと思っております。山根さんにおかれても、言葉を通して子どもの感性を育むといった、大変素晴らしいご活動をされており、今後一層のご活躍を期待しております。今後とも、よろしく願います。

ければ、こちらの呼びかけに、組合員ホール経営者は心を動かし、積極的に協力をしてくれます。そのあたりのまとまりは素晴らしいですね。

山根 私は、今、子どもの言葉を育てることを目的とした「ことばの杜」という団体を主宰していますが、リーダーシップというのは、結局、言葉ではないかと思っています。理事長の呼びかけの言葉には、きっと説得力があるのだと思います。だから、みなさんがついてくる。

原田 お誉めにあずかり光栄です。もしかしたら、若いころに教師として子どもたちに話しかけていた経験が役立つのかもかもしれません(笑)。

山根 さて、業界の今後の社会貢献のあり方を、どのようにお考えでしょうか。

原田 各ホール、支部、都府県方面遊協が独自の視点を生かし、これまで同様、地元や地域のために何ができるかを真剣に考え、それぞれができる社会貢献に継続的に取り組んでほしいと思います。そのうえで、平山郁夫先生をはじめとする諸先生方にご協力いただき、せっかくこのような機構を創設できたのですから、ここを

